

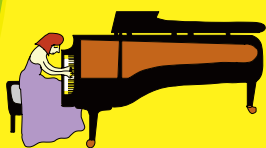


ミュージック・ シェアリング だより

ICEP 日本 2023 [6月]

Music

sharing



初夏、6月にお会いしましょう。

2006年から続けてきたICEP（インターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム）の活動は、自然災害や、コロナ感染によって仕方無くキャンセルする年もありましたが、今年のICEPツアーは、感染予防対策でコロナを迎え撃つ意気込みながら、施設の先生方、医療関係者の方々、メンバー、スタッフも完璧な防御態勢で臨みました。あれからもう1年経つのですね。緊張がゆるんできたからでしょうか。あんなに暗い闇を通してきたのが意外に瞬間的だったようにも思えます。でも今私たちは目覚めたのですよね。皆さんの笑顔と出会い、一緒に語り合える幸せをかみしめて、6月17日、ツアー最終日まで元気に訪問を続けます。では、もうすぐお会いできますね。

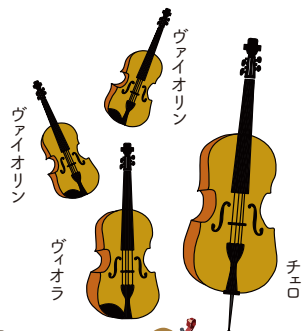


認定NPO法人ミュージック・シェアリング 理事長
ヴァイオリニスト 五嶋みどり



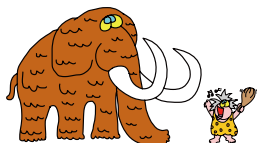
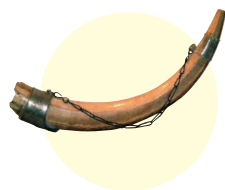
カルテット（弦楽四重奏団）

クラシック音楽はもともと6世紀ごろに生まれた宗教音楽が基になっていて、16世紀になると現在使われているものに近い楽器が発達し、宮廷の音楽として栄えました。さらに18世紀半ばには、貴族や上流階級の人々が礼拝だけでなく、自分たちで宮殿の音楽室や大邸宅のリビングで演奏したり、評判の高い演奏家などを招いて音楽を楽しんだりする機会も増えました。特にオーケストラのように多数の演奏者や指揮者を必要としない、少人数で手軽に演奏できる室内楽が喜ばれました。室内楽には2人で演奏するデュオ、3人のトリオ、4人のカルテット、5人のクインテットなどがあり、中でも、ヴァイオリン2挺、ヴィオラ1挺、チェロ1挺の4つの弦楽器で演奏するカルテット（弦楽四重奏団）は室内楽の始まりと考えられ、主流となりました。クラシック音楽の弦楽器の4本の弦は、今はほとんどが合成繊維で作られていますが、昔は羊の腸などが使われ、それをはじいたり、馬のしっぽの毛を張った弓でこすりたりして音を出します。室内楽の中ではピアノとヴァイオリンとチェロを組み合わせたピアノトリオ（ピアノ三重奏）も有名ですが、これらの3つの楽器がそれぞれの演奏者の特徴を大切に演奏されることが多いのに比べて、弦楽カルテット（四重奏）は4人が時にはお互いにメロディーを支え合い、また一緒に曲を盛り上げる時もあります。





こんにちは。このページでは皆さんが「へえーっ」「なーるほど！」と思うこと、例えば作曲家の裏話や、楽器のうつり変りについてご紹介してきました。オーボエ、ピアノ、ギター、箏、笙、箏篋、龍笛、それから別のページではヴァイオリン族（ヴィオラ、チェロ）も目にしたと思います。今日は現在オーケストラや、バンドで使われている楽器のルーツを探ってみたいと思います。一体楽器っていつ頃から作られてきたのでしょうか。石器時代、そうです、携帯電話どころか洞穴に住んで野生の動物の狩りをしている頃からあったんですって。



左の写真は約4万年前、スペインで見つかった洞窟の中に描かれた堂々とした、そして生き生きとした動物の壁画です。彼らが正に人間が生きていくうえで大切な糧であり、友であったに違いないことが想像できますね。命をかけた狩りが上手いけばバンザイ以上の喜びの気持ちが沸き上がるでしょうし、「それ行け」の歌声と共にどんどん足踏み手をたたく、時に大きめの違った石を叩いたり、動物の足の骨や角から作った笛などが喜びの場で大いに用いられたに違いありません。その進化系が木琴、ホルン、フルートの類です。

ICEPの演奏家が愛用するバイオリンだって胴体は木、4本の弦は羊の腸、弓は馬のしっぽの毛。和楽器では箏の爪に象牙、笙は竹、太鼓類には馬、牛の皮などが使われているのを知るとナ・ル・ホ・ド！楽器のルーツは自然から、ですね。地方によってそれらは進化し、いろいろな音が音楽の表現を豊かにし、はい、オーケストラとなりました。もう狩りをすることはありませんが、君たちも楽しい時、悲しい時、自然から（又身の回りから）作った自分の楽器で演奏してみませんか。周りに何もない？声がある、体があるじゃないですか。それからそれから、、、





豆知識～ ICEPって何のこと？

ICEP「インターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム」は、地球全体のコミュニティ（仲間、国々）がつながり、エンゲージメント（約束ごと）を計画的にやり遂げる方法という意味があります。どの国に限らず、お友達とのつながりもあれば、まだ会ったこともない人々、私たちの祖先やずいぶん前に亡くなられた方を「仲間」と考えるなら、まず彼らのことを知らなければ始まりません。石器時代の人々が残した壁画を見たり、地球がまると発見した人のことを知ったりすると、私たちが本当に多くの人々が培ってきたものによって今存在することをつくづく感じますね。世界のあちこちに独自の文化が成長し、長い歴史のなかでその考え方もどんどん変わっていても、それぞれに違う文化を知れば、お互いを尊敬するようになると思いませんか？



ラオスに夢馳せて



ICEPのアジアでの活動がキャンセル続きで地団駄を踏んだのが3年前、ようやく今年12月に2010年以来、2回目のラオス訪問の目途が立ってきました。日本とは約20℃の温度差のある温暖な気候。東南アジアに属するベトナム、シンガポール、タイとは違って、ラオスは海に面していません。国を貫いて流れるメコン川はチベット高原から発して中国雲南省、ミャンマー、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナムを経て約4200 kmを流れ、南シナ海に注ぎ込む大河。この理由で淡水魚（川魚）が日常食となっています。先の約2週間足らずのツアーでも恵まれない子どもの多い病院、孤児院、学校や高齢者施設をまわりましたが、印象に残った子どもとの会話を紹介します。「この弓は何から作られたと思いますか？」と尋ねると、「象の毛です」との答え。1400年頃にできたランサーン王国。「ランサーン」は「100万頭の象」の意味で、ラオスには、力も勢いもある象が戦争に使われるほど沢山生息していたのです。なーるほど、お国柄ですね。近頃の発展途上国は、モダンなビルが建ち並び、マーケットに至っては食料も豊かで清潔。清涼飲料もあるある、ないもの無し。発展途上国が発展完結国になった？顔を洗ってあげたい子どもたちや、少くくらはゴミ箱があればと眉をしかめたのはいつのことだったか。女性たちはシステム化された共同農場で和気あいあいと働き、水回りも良くなりました。ところがある日、大型のバンに運賃を値切って、ある地区まで乗せてもらうことになり、乗り込んで15分。「はい、ここまで」と降ろされる。値切り方が悪かったか、いえ、お金の問題じゃない。その道の向こうは被差別地域だったのです。頑固者！とドライバーを心中で怒鳴りながら、

徒歩で施設へ到着後、早速訪問コンサート。子どもも大人も笑顔がやさしい。この地区出身では就職できない。彼等には戸籍が無い。パスポートはどうするの？おじいさんおばあさんの時代に設けられた被差別地域が未だに存在する。「私たちは日本から、アメリカから来ました」と地図を指さす時、心が痛んだのは私だけではなかった。一日も早く本当の自由をゲットできる社会になってほしい。

「黙食」もありました。「マスク義務」もありました。でも私たちには出口が見えています。誰もがそうあって欲しいですね。



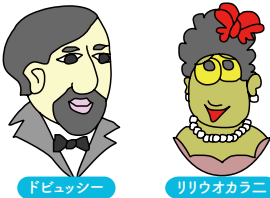
リスニング・プログラムのご紹介

五嶋みどりのお話に沿ってクラシック音楽を楽しく鑑賞する約20分の動画を第10回まで制作し、136施設に配信しました。曲の背景の説明、クイズコーナー、五嶋自身の演奏などを交えながら、さまざまな曲を子どもたちに届けました。日本の学校や病院施設だけでなく、アメリカ、オランダ、カンボジアなどの日本人学校にも配信しています。



作曲家とお友達に

今回皆様のもとに“本物の音楽”を届けるICEP カルテットは、「クラシック・ミュージック」を演奏します。「クラシック」= 古めかしい = 贅沢 = 格式ある、を意味するラテン語 {クラシス} からギリシア語そしてヨーロッパの多くの言語に浸透し、主に芸術分野で一般化したのがクラシック音楽。その代表的な作曲家は？天才モーツァルトとかベートーヴェン、一体彼らはどんな子どもだったのでしょうか。モーツァルトはウィーン生まれで、小さい時からピアノが上手でお父さんと演奏旅行をしながら作曲もして、35歳で亡くなるまでに約900曲も作品を残したと言われる「神童」、えーと、ベートーヴェンはいつもこわーい顔で睨みつけてるおじさん。有名な「ダダダダーン」で始まる交響曲5番、空恐ろしい悪魔の到来と平和な静けさのあと、荘厳に終わる。クラシック音楽と一言で言っても色々な曲があるんだね。それにこの二人だけを比べてもいっぱい面白いことがあるよ。モーツァルトっていつも白い髪（ウィッグ）をかぶっていてお城でコンサートに招かれたり、お金持ち（貴族）の集まりでピアノを弾いたりして生活していたらしい。一方ベートーヴェンはそのころまでのパーティー・ファッション（裁判所の裁判官たちもそうでしたよ!）だったウィッグをかぶらなかったし、誰かの下で働かなくて、音楽家を他の分野の人々と同じ、またそれ以上の地位に押し上げたんだよ。自信家で、ファッションセンスにたけていたんでしょ。こんなことを考えて彼らの音楽を聴くと、彼らがすぐ近くに居るようで楽しい。ドビュッシーはフランス万博で紹介された日本の文化に影響を受けた芸術家のひとりです。



アメリカのスコット・ジョプリンは、アフリカのバックグラウンドから生まれたオペラを作曲、後にジャズを開拓。ジョン・ケージなんて作曲家は全く音のない4分33秒を“曲”として発表し（1952年）、センセーションを起こしました。音が全くない曲です!でもその時間に聴こうとする人の心の揺れが、音を聴いていて起こる反応

に似たものがあるのかも知れませんが、作曲家が生まれた時の、一口で言えば「社会」「歴史」を知ること、音楽を聴くときの面白さを倍増させてくれることでしょう。

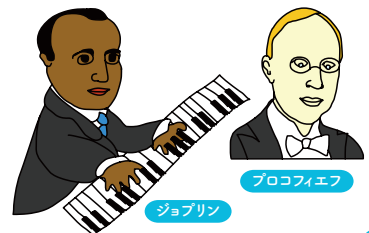




Photo: T. Greenfield-Sanders

五嶋みどり (ヴァイオリン)

Midori, violin

おおさか^{ごとう}生まれ。10歳で渡米。同年ニューヨーク・フィルとの協演で楽壇にデビュー。以来世界の名だたる音楽家と共演を重ね、デビュー 40周年を迎えた。20歳で非常利社会活動団体「Midori&Friends」(米国NY)と「ミュージック・シェアリング」(日本)を設立。芸術家であり人間のあるべき姿^{すがた}を追求することを両輪に“本物の音楽”^{たずさ}を携え、世界各地で恵まれない人々のもとを訪問^{めぐ}する。使用楽器はグアルネリ・デル・ジェス「エクス・フォーベルマン」(1734年作)。現在、カーティス音楽院等で教鞭をとる。国連ピース・メッセンジャー。

<https://www.midori-violin.com/>



ステファニー・ザイザック (ヴァイオリン)

Stephanie Zyzak, violin

アメリカ、サウスカロライナ生まれ。7歳でアスペン音楽祭においてソロ・デビュー。シンシナティ交響楽団^{こうきょう}をはじめとするオーケストラとの共演に加え、マールボロやラヴィニア音楽祭でも定期的に演奏し、ジョナサン・ピス、キム・カシュカシアン、内田光子などの著名な音楽家と共演。ニューイングランド音楽院^{けいんぎん}を卒業後、ニューヨーク市立大学大学院センターで研鑽を重ねる。使用楽器はスティーンズ音楽院から貸与^{かよ}されたジョセフ&アントニオ・ガリアーノ(1778年作)。



ハンナ・イシザキ (作曲家)

Hannah Ishizaki, composer

ハンナ・イシザキ、はアメリカNY在住^{ざいじゅう}の作曲家^{かのじょ}で、彼女の目指す“ミュージシャン(演奏家)^{ちやうしやう}と聴衆^き(聴く人達)のつながりを育むこと”を目指した曲の数々は、室内楽、オーケストラ、声楽曲^{もうら}を網羅したジャンルで生み出され、国際的にも認められ、頻繁に演奏されています。特筆すべきは、ダンサー、俳優、映画製作者、ビジュアルアーティストと協力して完成させる革新的で学際的なプロジェクト^{かのじょ}が彼女の美点であり、有望視されるゆえでしょう。

ハンナは、活発なバイオリニスト、プロデューサー、指揮者でもあります。





エリカ・グレイ (ヴィオラ)

Erika Gray, viola



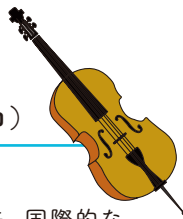
アメリカ、イリノイ州出身。2017年にシカゴ交響楽団と共演し、『ドン・キホーテ』のソリストに抜擢されるなど、主に欧米をはじめ日本、オーストラリアで活躍。ソロ演奏はアメリカのパブリック・ラジオで放送される。カーティス音楽院在学中には同校交響楽団で首席ヴィオリストを務め、卒業後はフィラデルフィア管弦楽団、ワシントン・ナショナル交響楽団の公演等へ参加している。ICEPカルテットのメンバーとしての訪日は2回目。使用楽器はシカゴのウィリアム・ハリス・リー・ショップから貸与されたグリー・ガラヴァリア (2011年作)。

<https://erikagrayviola.com/>



サンドラ・リード・ハーガ (チェロ)

Sandra Lied Haga, cello



ノルウェー出身。12歳でデビューして以来、国際的なコンクールでの優勝を重ね、ヨーロッパ各地のオーケストラやヨーヨー・マ、アンネ＝ゾフィー・ムターをはじめ著名なアーティストと共演。デビュー・アルバムのドヴォルザークのチェロ協奏曲他は、ノルウェー・グラミー賞にノミネートされる。3歳でチェロを始め、ノルウェー音楽院、イェール大学等で研鑽を積む。使用楽器はデクストラ・ムジカより貸与されたヨハネス・フロレンス・グイダントゥス (1730年作)。

<https://crescendiartists.com/portfolio/sandra-lied-haga/>



大菅さら (インターン・コーディネーター)

Sara Osuga, coordinator



東京都出身。幼少期・青年期を東京、ジャカルタ (インドネシア)、ニューヨーク (アメリカ)、ニューデリー (インド) で過ごす。5歳よりピアノを始め、音楽祭やコンクールに参加しつつ、アマチュアとして現在もレッスン受講・演奏を継続している。上智大学法学部卒業後、現在はスイスのジュネーブ国際・開発研究大学院に在籍、ジェンダー論を扱った修士論文を執筆している。



ミュージック・シェアリングのニュース

サントリー・ホールのステージで

関東エリアの特別支援学校の生徒と卒業生は、5月11日（木）、理事長の五嶋みどりがベルリン・コンチェルトハウス管弦楽団と協演するコンサートがサントリー・ホールで行われた際、プレ・コンサートに出演しました。プレ・コンサートと言うのはコンサートに先駆けて行われるイベントです。日頃の練習の成果を大会場で披露したお友達に、多くの方が拍手を送りました。演奏曲目は久石譲作曲「MIDORI Song」他でした。「初めはドキドキしたけれど、とっても楽しかった。夢のようだ」と興奮さめやらない様子でした。



嬉しいパーフェクトなバリアフリー建築

関西エリアの大阪府立むらの高等支援学校と大阪府立茨木支援学校、大阪府立寝屋川支援学校の合同コンサートが、一昨年6月、ミュージック・シェアリングと『文化芸術推進の提携』をした枚方市の真新しい総合文化芸術センター・大ホールで行われました。コンサート2部は協力アーティストの荒絵里子（オーボエ）+遠藤直子（ピアノ）さんによるミニ・リサイタルでした。同じ大阪市の衛星都市の茨木市と枚方市、寝屋川市の子どもや父兄と一緒に努力、協力して輪が広がることは素晴らしいですね。今年は6月18日（日）です。



澄み切った空、自然の匂いの中で、

昨年からの試験的に始まった、僻地認定を受ける学校へミュージック・シェアリングのサポーティング・アーティストが定期的に訪問し、普段、馴染みの薄い楽器体験、音楽鑑賞をするプログラムがいよいよ今春より本スタートを切りました。テスト期間を経て、和歌山市有田郡の八幡小学校、安曇小学校では本プログラムとして、沖縄県南城市の知念小学校、久高小学校でもテストワークが始まります。乞うご期待です！



ミュージック・シェアリングのHPやMeta（旧Facebook）からも詳細をご覧ください。

認定 NPO 法人ミュージック・シェアリング

〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目5-18 半蔵門ハウス601

☎ 03-6256-9733 📠 03-6256-9734 🌐 <http://www.musicsharing.jp/>

✉ info@musicsharing.jp 🐦 @npomusicsharing 🔗 Meta @npomusicsharing

担当者：野本、堀

このミュージック・シェアリング便りからの無断掲載はお断りいたします。



助成：一般財団法人 日本児童教育育成財団、公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

公益財団法人 日本室内楽振興財団、一般財団法人 MRAハウス

協賛： **kikkoman** **UACJ** **KAO** **DYNATREK**

